

2020年8月1日開院

“Yuuai Medical Center”

友愛医療センター 心臓血管外科だより

Vol.26
2023年
4月

～いよいよロボット心臓手術開始～

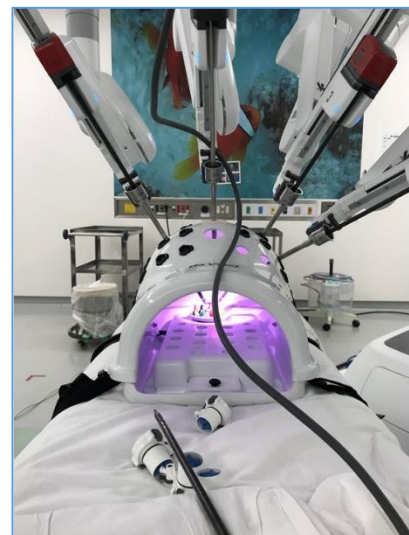
当院では2023年4月下旬より手術支援ロボット（ダビンチ）を使用した心臓手術開始の予定となっております。現在、この術式は僧帽弁閉鎖不全症に対する形成術、もしくは僧帽弁閉鎖不全症＋三尖弁閉鎖不全症に対する2弁形成術、のみが適応となっております。当科では安全面を第一にまずは、僧帽弁閉鎖不全症に対する形成術、から開始したいと考えています。

ロボット使用の手術を導入しようと考えたのは以下のロボット手術の利点にあります。

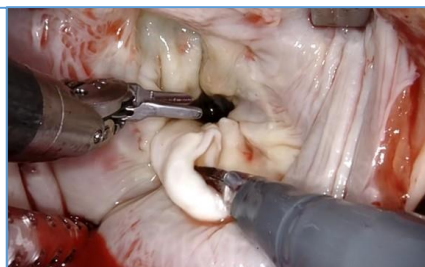
- 1) 高性能カメラにて3D画像を術者・周辺スタッフ皆で観察できるため病態把握がより深まる
- 2) 創部が小さいため痛みが少ない

他にも利点がありますがこの2点に非常に大きな魅力を感じた次第です。特に1)は僧帽弁形成術の成功率に大きく関与します。病変部の把握はなによりも重要なことですがこのカメラはどこまでも心臓内にはいることが可能です。添付した術中写真でも僧帽弁の弁下組織がこの解像度で視認可能です。さらにダビンチアームは人間の手の可動域を超える動きが可能であるため「使いこなす」ことが可能であれば非常に有用な治療ツールとなります。

創部は3-5cmの肋間開胸で創部の開大を行いませんので創痛は最小限となります。



ダビンチによる実機訓練



←ダビンチアームによる僧帽弁尖の観察

ダビンチカメラによる僧帽弁下組織の観察 →



現在国内では30施設のみがロボット心臓手術を行うことができます。学会が厳しくこの手術への参入を審査しているのが現状であり、我々も昨年4月に申請し漸く患者さまへの還元が可能となりました。

プロクターが必須の手術であります。現在国内で2番目にこの手術を多く行っている札幌ハートセンター心臓血管外科の橋本誠先生の指導を全面的に仰ぎます。彼は私山内と2011年に豊見城中央病院心臓血管外科の立ち上げた後輩であります。今や日本のトップサーजनとなり医療を我々に還元してくれることに快諾をいただいております。

ロボット心臓手術は外科医や施設の自己満足ではなく、適正使用によって大きなメリットのある治療法となります。当院でも慎重に導入を開始し、その結果分析から適応を決めたいと考えております。MICSの僧帽弁形成が可能な患者さまが対象となります。国内では全施設の30%強が僧帽弁閉鎖不全症をMICSで行うようになってまいりました。安全性についてを遵守することが大前提であり、当院でもそれにならない現在では単独僧帽弁手術の9割はMICSとなっております。治療のご検討をされる患者さまがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

当科は4月より心臓血管外科医師1名、専属診療看護師NP 1名が増員し人的パフォーマンスがさらに深まります。今後とも当院当科をどうぞよろしく御願いたします。

友愛医療センター 心臓血管外科
山内 昭彦



友愛医療センター
心臓血管外科医長
檀山 耕平

札幌ハートセンター
札幌心臓血管クリニック
心臓血管外科部長/MICSセンター長
橋本 誠 先生



執筆：
心臓血管外科 部長 山内 昭彦



山内昭彦ブログ「日本最南端の心臓外科医日記」より
「MICS-CABG による回旋枝領域へのバイパス」



ホームページ



心臓血管外科の
Facebookが
新しくなりました！

